

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300257		
法人名	株式会社 清流		
事業所名	グループホームおものがわC棟		
所在地	秋田県横手市雄物川町沼館字高畑394		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐在所、スーパーマーケット、レストランが近くにあり、社会資源に恵まれた場所に位置している。設備の整った中央公園は真向いであり、日頃より散歩コースとして活用している。</li> <li>・A、B棟のノウハウを活かし建物の構造も改善している為、入居者様と職員の動線に沿った最適な造りとなっている。</li> <li>・毎月2回訪問看護があり、受診困難な方へは往診もして頂いている。日頃よりかかりつけ医、歯科医院、薬局も含め気軽に相談ができ、医療連携も密に取れている。</li> <li>・ご家族様へは毎月ご本人様の様子を手紙にし日々の写真も添えている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利便性の高い場所に立地しており、これまでは地域の行事等に直接接することができましたが、コロナ禍にあって活動に制限が続き、ホーム中心の生活が多くなりました。それでも駐車場を活用したり、ホーム前の広い公園に出かける等して気分転換を図り、できる限り外気に触れる機会をつくって利用者が少しでも「あたりまえ」の生活が実感できるよう努め、利用者の暮らしを支えています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は『あたりまえのことはあたりまえに』を運営理念の下、『その人らしく、のんびり、ゆったりと』をケア方針に掲げ、情報提供を密にしその方らしい生活ができるように取り組んでいる。	職員皆で話し合って年度目標を設定し、ケアの統一を図ってより良いケアを目指して実践に繋げることができるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所では食材の注文、配達や馴染みのある美容院を受け入れて地域交流に力を入れている。また運営推進会議にも地域の方々に参加して頂いている。	事業所自体は地域の一員としてこれまでと同様のお付き合いをしています。感染防止対策もあって、利用者が参加できる行事等の中止が続いていますが、周辺の散歩の際には近所の方と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	通信へ認知症の方への理解や接し方、GHでの生活などを載せて発信している。包括主催の徘徊見守り訓練に参加し、支援の方法などを伝え、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催している。行政や社協、民生委員、地域福祉協力委員、地域の方々にも参加して頂き、入居者様の状況やリスク、サービス内容等の報告し意見を取り入れ、サービス向上に努めている。	書面上の会議を定期的で開催していますが、状況報告にとどまっておき、会議メンバーから意見を聞いて運営に活かす取り組みがなされていません。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括、社協、居宅事業所、病院関係等積極的に情報共有に努め、協力関係を築いている。(月1回の地域ケア会議に参加している。また、介護相談委員の受け入れにより積極的に外部へ取組を伝えている。)	介護相談員の受け入れを通じて利用者の思いを日々の業務に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事故の危険性が高い方に関しては、ご本人、ご家族の了承を得て、ケア提供が困難な時間帯、職員配置等に支障のある場合のみ対応している。また、外す事がゴールであることを職員全員が理解し、安全に生活が出来るようケアにあったっている。	勉強会を通じて職員の理解を深め、身体拘束、虐待をしないケアに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業制度を利用している方がいた為、制度について現場で学ぶ機会があった。また研修会等への参加で知識の習得に努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に関してはご家族様に対し十分に説明し、ご理解頂き納得したうえで進んでいる。入居に対しての希望や退去後の施設選び、サービスの選択、社会資源の活用など幅広く説明し、理解を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	市の介護相談員の訪問時、ご家族様の面会時など入居者様が要望や意見を外部に発信できる環境にある。ご家族様に対してもアンケートを実施し、日頃から意見を発しやすい環境であるよう心掛けている。また、苦情処理受付箱を設置し意見を頂き運営の反映に努めている。	家族アンケートの結果を家族に報告すると共に、家族が話しをしてくれる環境づくりを心がけています。出された意見に対してはその都度対応できるよう努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	管理者会議、ケア会議、職員会議、毎日の申し送りで、ホームの環境、ケア提供に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また一人一人が発言しやすい雰囲気作りも大切にしている。	職員の意見、提案で業務及びケアの改善が行われ、環境設備の改善にも繋がっています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全県、横手市GH研修会、運営推進会議、GHの相互研修等を勉強の機会とし、質の向上に努めている。職員は積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネと通じ、ご本人の性格や生活歴を情報収集し、ご本人が安心して生活して頂く事を第一に要望や不安な事を傾聴しながらより良い関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族が現在困っている事や要望を十分に傾聴し、ホームの生活において不安に思われている事を軽減できるよう、安心して利用して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上において、できる部分は見守りながら行なってもらい、できない部分を手伝いながら自立支援を目標に、共に生活するパートナーとしての関係作りに努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様に対して担当職員と管理者からのお手紙を送付し、生活状況や健康面などについても報告させて頂いている。また電話や面会時にも状況報告を行なっている。情報の共有と関係の強化に努め、共にご本人様の精神の支えになれるように努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族様の了承を得て友人やご近所の方との面会を受けていたが、前年度は感染症の件もありご遠慮頂いた。	制限を設けながらも、家族の面会を再開しています。受診の際に知人と会うこともあることから、感染症が落ち着いたら馴染みの人や場所の関係支援に努めたいと考えています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の介入により入居者様同士のコミュニケーションがスムーズに行われるよう支援に努めている。また、入居者様同士が互いに居室を訪問し合える環境作りに努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご本人様、ご家族様との関係を大切に介護保険サービスについての相談や他施設に関しての相談、情報提供をしながらできる限りの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、それぞれの思いや希望を聴き出せる様に努め、その都度記録している。困難な場合でも人格を尊重し寄り添える様、話し合っている。	日常の関わりの中で、気づきを大切にしており、入浴中の会話等も忘れずに記録しています。アセスメントしてホームでの暮らしに活かせるよう取り組んでいます。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や暮らし方、趣味、生きがい等を情報収集し、ホームでも継続して支援出来る様努めている。また居室には馴染みの物を持参して頂く等環境整備にも努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	入居者様には普段の会話の中から聴き出す努力をしている。ご家族様には毎月の手紙でご意見やご要望を頂ける様取り組んでいる。	担当職員のモニタリング後、職員間での話し合いを経て、本人、家族の意向も反映させた介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援、記録が出来るよう努めている。また介護計画のモニタリングも職員全員に実施してもらっている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買い物に出かけたり、歩行可能な方は向かいの公園へ散策に出かけるなど、地域の中で安全に生活できるように支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望する従来の主治医がいるのであれば、ご家族様と協力してかかりつけ医師の継続を図り、情報提供できる体制にある。またホームの協力医院、薬局、歯科医院があり情報共有を図りながら支援に取り組んでいる。	入居前と同じ医療機関で継続受診しており、意向に添った支援が行われています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問看護や、医療機関との連携を活かし支援を受ける事が出来る。指示や相談を受ける環境にあり、入居者様の方達が適切な受診や看護を受けられるよう支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院から入院治療計画書を頂いたり、退院時にはムンテラの間を設けてもらい医療相談室を通じて病院関係者との情報交換を図っている。また入院中の洗濯物の交換や補充、オムツ類の補充など、利用者様が安心して治療に専念できる体制を作っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において、ご本人様の状態が重度化した場合やターミナルのありかたに対し、事業所の対応を説明させて頂いている。医療機関とご家族、事業所との話し合いの場は必ず設け、チームで支えあう支援に取り組んでいる。そして職員においても対応できる姿勢を話し合う機会を設けている。	指針を策定し、希望に添って支援しています。これまでも家族の協力を得ながら一緒に看取りの支援を行っています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は連絡網を含め「フローチャート」に基づきマニュアル化されている。管理者を中心に事業所内の研修や外部研修を受講し、実践力の向上を図っている。いざという時の対応を常に話し合い、事故発生時や急変時に備えている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を行い、年2回は消防署立会いの下合同訓練を実施し、災害に対する避難方法、対策に取り組んでいる。また災害時の備蓄品の確保、見直しを行ない、自家発電機の使用の確認をするなど災害対策に努めている。	コロナ発生前は近隣の協力を得ながら避難訓練をしておりました。水害時の指定避難場所の設備を確認し、備品の確認、見直しも行って有事に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つける事のないよう声掛けや対応に配慮している。また研修においてプライバシーの保護にて守られる権利を有している事を常に心に持ち接している。	声のトーンに気をつけ、状況に沿った声かけ、対応を心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その人らしさ」を尊重し、衣類の選択、行きつけの美容院に出向いたりしている。またホームに出張してくれる美容師さんには、その人らしくセットして下さるよう配慮してもらっている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態に応じた食材や形態で提供できるよう配慮し、職員が同じテーブルに付いて楽しい食事の場となるよう支援体制を設けている。また可能な方には職員と一緒にテーブル拭きや食器拭き等もお手伝いして頂きながら楽しい場となるよう支援している。	利用者の嗜好も大切に、希望を献立に取り入れています。駐車場を利用してお茶をいただいたり、一緒に山菜の処理をしたりして楽しい食事に繋げています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を取り入れ、栄養バランスに考慮した献立作成に努めている。提供する食材や食器は一人一人の状態に配慮し、工夫している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践し、口腔内の清潔保持に努めている。義歯は毎日消毒管理している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘を予防するための食材選びやレク体操、排泄誘導確認表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握し失敗を防ぐなど、自立に向けた支援を行なっている。	一人ひとりのパターンを把握することによって失禁の減少に繋がった事例もあり、チェック表を活用した支援が行われています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の生活歴や排泄パターンの把握は勿論、飲食物の工夫、日中のレク活動の推奨を通じてご本人様が自然体で排泄できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を確認しながら、状態に応じ全身浴、部分浴、シャワー浴等を行なっている。また状態の悪い場合には足浴マシンの活用、全身清拭など個々の状態に応じ支援している。	1日おきに入浴しており、湯船に浸かることができない方は、足や身体を温めながらシャワー浴で対応しています。利用者の身体状況に合わせて浴槽が左右に移動できる造りになっています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時の状態により安心して就寝できるように寝具の工夫を行なっている。また、就寝前にはゆっくりとテレビを鑑賞したり、職員との会話を通じスムーズに入眠できるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関や薬局からの説明書により処方された薬の効用、副作用や注意事項などを全員で確認している。協力薬局の薬剤師からも支持を得て、服薬の支援と症状の変化に注意を払い連携体制を確立している。また服薬結果も主治医に報告している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味や楽しみ、役割を理解し活動や手伝いの支援を図っている。モップ掛けや配膳、食器拭き、洗濯たたみ等役割を持ってもらい出来る事へのサポート、職員と近くのスーパーへ買い物に行く等で気分転換の支援をしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム前の公園への散歩、買い物、ドライブ、地域行事への参加、食事会への外出等、感染対策を行ない希望に沿う機会を多く設けるよう努力している。	コロナ禍で外出の機会は少なくなりましたが、少しでも外気に触れる機会を大切に、ホーム前の広い公園で散歩したり、駐車場も活用しています。受診で外に出るのも良い機会となっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様全員が所持はしていないが、買い物同行時におやつや生活用品を購入したりしている。職員は一人一人がお金を持つ大切さを理解している。また、大切に使う事が出来る支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回の消毒清掃、換気、空調管理、空気清浄器、加湿器、除湿器を活用し衛生面に置いて最も配慮している。季節の花や展示物、環境整備を図り、ホームでの生活が心地良く過ごせる様工夫している。	換気に気を配って衛生面に配慮し、感染防止に努めています。壁には共同で作った季節の作品や行事の写真が飾られています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思い自由に過ごす事が出来る様居室に椅子やソファを置き一人になれる時間や気の合った仲間が行き来できるような居場所の工夫をしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、テレビ、家族写真、位牌、ご本人様のご家族様と相談のうえ持ち込まれた物品により、在宅時と同じ様、ご本人様が居心地良く生活できるような工夫を図っている。	本人の馴染みの物を持ち込み、安心できる居心地の良い居室となっています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が持っている力を十分に発揮できる様お手伝いの種類にも配慮し、「できる事」「介助にてできること」など安全に自立して力が発揮できる様な環境整備に努め、生きがいを持てる工夫をしている。		